

国際医療福祉大学成田薬学部薬学科 開設の概要・大学誘致による効果に ついて

成田市 企画政策部
国家戦略特区推進課



成田薬学部の概要・特長

概要

学部学科名称	成田薬学部 薬学科
認可日	令和5年8月30日
開学日	令和6年4月1日
修業年限	6年
入学定員	120名
収容定員	720名
取得資格	薬剤師国家試験受験資格
開設地	成田キャンパス 公津の杜校舎（1～2年次） 所在：成田市公津の杜4番地3 畑ヶ田校舎（3～6年次） 所在：成田市畑ヶ田852番地
学生納付金 （学費）	6年間合計 9,900,000円 ※私立大学薬学部の平均学費 12,047,000円
特待奨学生制度	特待奨学生S：15人・授業料100%給付 特待奨学生A：20人・授業料50%給付

特長

1. 国際性	<ul style="list-style-type: none">成田キャンパスには、百数十人の留学生が在籍し、外国人教員や海外での教育・臨床経験豊富な日本人教員を多数配置海外研修が必修
2. 実践的な教育	<ul style="list-style-type: none">模擬保険薬局をはじめとした学内臨床実習施設による臨床薬学教育に重点を置いた教育学部を横断してチーム医療・チームケアを学ぶ独自のカリキュラム
3. 附属病院に隣接	<ul style="list-style-type: none">3～6年次は、大学病院に隣接する校舎で学ぶため、教育と医療が一体となった理想的な学修環境
4. 低額な学費	<ul style="list-style-type: none">他の私立大学と比べ、学生納付金を低額に設定特待奨学生制度も充実し、特待奨学生Sに選抜されると、国立大学よりも低額な学費で進学可能（6年間合計330万円：実習費等）

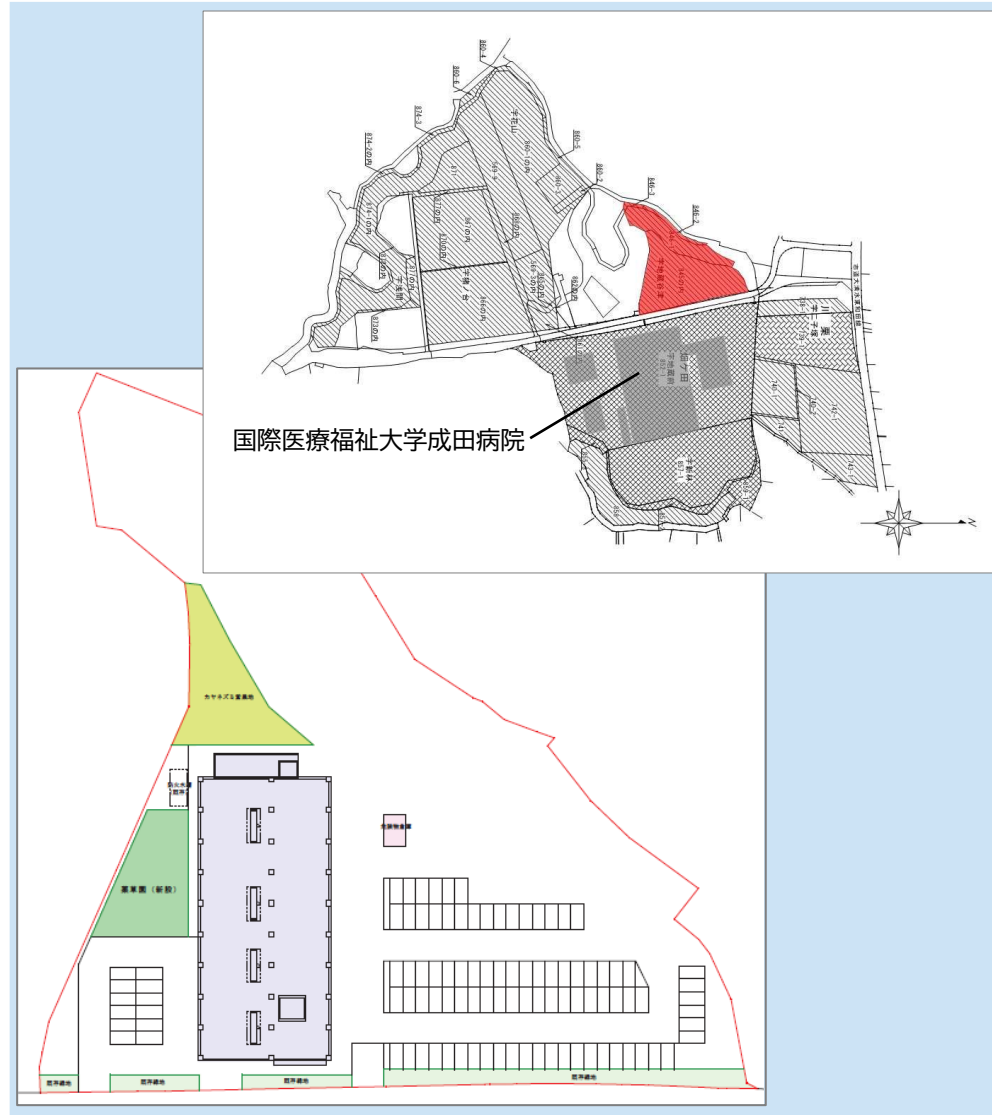
目指す薬剤師像：医師、看護師などの専門職とチームを組んだ治療や、訪問医療の一翼を担う、チーム医療・チームケアに貢献できる「臨床に強い薬剤師」

畑ヶ田校舎（成田薬学部棟）の概要

概 要

名称	成田キャンパス畑ヶ田校舎
敷地地番	成田市畑ヶ田845番の一部ほか3筆
工期	令和6年12月着工予定 令和8年 2月竣工予定
構造	鉄骨造6階建て
敷地面積	10,151.39㎡
建築面積	1,453.93㎡
延床面積	8,760.28㎡（約2,650坪）
事業費（概算）	建築費 約41億円 設備費 約14億円※ 合計 約55億円 ※設備費は、自動分割包装機、 クリーンベンチ（排気装置）等、 薬学部教育研究機器費
校舎内施設	学生ラウンジ、講義室、情報処理室、 ゼミ室、研究室、調剤実習室、測定・ 解析室、模擬薬局室、細胞培養室、低 温倉庫、教員研究室、セミナー室、実 験研究室、動物実験室、飼育室
附属施設	薬用植物園を校舎隣接地に設置予定

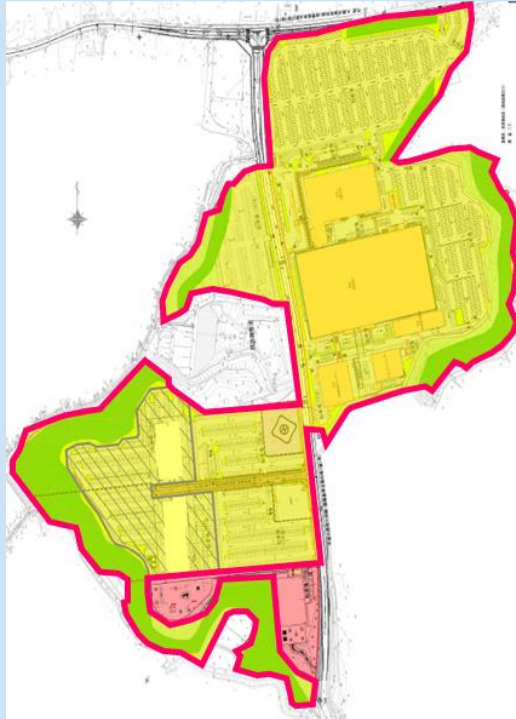
位置・配置予定図



畑ヶ田校舎建築に係る契約関係事務

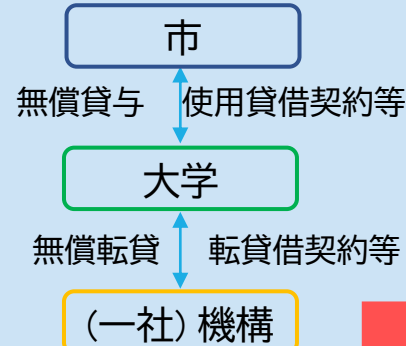
大学病院関連施設用地の一部を成田薬学部棟用地として使用するため、使用貸借契約における使用目的を明確にする必要があることから、当該用地については、使用目的を改めた上で新たな使用貸借契約を別途締結する。

現 状

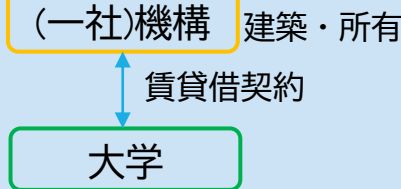


■ 無償貸与・転貸等している土地

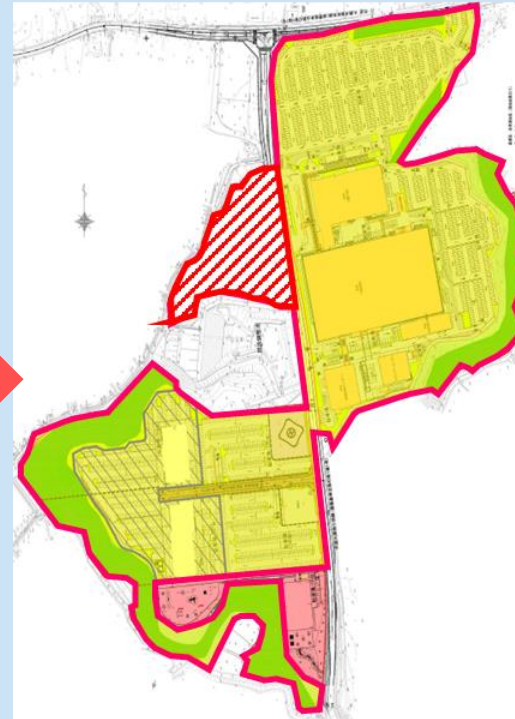
【土地】（約15ha）



【建物】



変更後

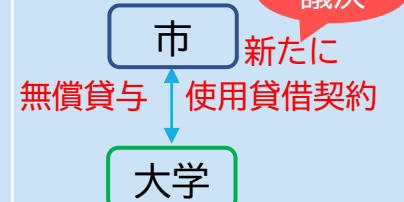


■ 無償貸与・転貸等している土地

■ 成田薬学部棟用地

- ①黄色部分は変更なし
- ②赤斜線部分は以下のとおり変更（約1ha）

【土地】



※その他、赤斜線部分を除くための使用貸借契約書及び転貸借契約書の変更契約

【建物】



使用目的：「国際医療福祉大学医学部の校舎、附属施設及びこれに関連する必要な施設の用地」

使用目的：「国際医療福祉大学の成田薬学部の校舎、医学部及び成田薬学部の附属施設並びにこれらに関連する必要な施設の用地」

国際医療福祉大学誘致による効果について

- ・36の診療科と600を超える病床
- ・1日平均1,000人以上の外来患者を受入れ（うち約3分の1が市内に居住）
- ・市消防本部から年間1,600人を超える救急搬送を受入れ

医療体制の充実

- ・これまでの卒業生は約1,500人
- ・看護師や理学療法士等の国家試験でも100%近くの合格率
- ・就職した卒業生の約6割が県内に就職。そのうち約3割が市内の医療機関に就職
- ・成田看護学部の卒業生の約半数が市内の医療機関に就職
- ・成田保健医療学部の卒業生の約半数が県内の医療機関に就職

医療人材の育成

- ・市と大学は連携に関する協定を締結
- ・協定に基づき、現在約70の事業で連携
- ・成田POPラン大会の救護ボランティア等に学生が参加
- ・消防団女性部で医学部の学生20人が活動

医学部の特長

- ・各学年の定員の15%の留学生を受入れ
- ・1・2年次の多くの科目で英語による授業を実施
- ・令和4年度、医師国家試験において留学生15人を含む124人が合格（合格率99.2% 全国2位）。約3分の1が県内の医療機関で臨床研修医として勤務

まちの活性化

- ・令和5年度約600人の新入生
- ・全学年で約2,500人の学生が在籍（うち約1,000人が市内に居住）
- ・大学及び附属病院にて、約1,900人が勤務（うち約1,000人が市内に居住）
- ・令和4年度には大学及び附属病院と市内事業者の間で約16億円の取引が創出

平成28年4月
国際医療福祉大学成田キャンパス開設

令和2年3月
国際医療福祉大学成田病院開院

市と大学の連携

開かれた大学

- ・大学及び附属病院では、「社会へ開かれた大学」の理念のもと、教育や研究の分野で知識を広く地域社会へ普及するため、定期的に市民公開講座を実施
- ・身近な病気や健康を維持する方法をテーマに、専門医や医療従事者が分かりやすく解説
- ・令和4年度は26回開催、延べ約1,800人参加 -4-

国際医療福祉大学誘致による効果について（医学部の特長）

医学部の特長

- ✓各学年の定員の15%の留学生を受入れ
- ✓1・2年次の多くの科目で英語による授業を実施
- ✓6年次には海外での臨床実習を必修
- ✓令和4年度、医師国家試験において、留学生15人を含む124人が合格（合格率99.2% 全国2位）。約3分の1が県内の医療機関で臨床研修医として勤務。

◆留学生出身国別一覧（R5. 5. 1現在）

留学生出身国	医学部		成田保健医療学部					計
	医学科	看護学部	理学療法学科	作業療法学科	言語聴覚学科	医学検査学科	放射線・情報科学科	
ベトナム	28							28
中国	11	3	3	1		2	1	21
ミャンマー	21							21
モンゴル	15	1				2		18
韓国	14	1	1					16
カンボジア	16							16
インドネシア	7							7
台湾	2							2
マレーシア	2							2
ラオス	4							4
アメリカ	1							1
カナダ	1							1
オーストラリア		1						1
計	122	6	4	1	0	4	1	138

◆令和5年度 医学部6年次海外臨床実習

国・地域	大学・施設	人数
ベトナム	ホーチミン市医科薬科大学	21
	国立チョーライ病院	9
	国立フンブン病院	2
	ハノイ医科大学	9
	フエ医科薬科大学	28
モンゴル	モンゴル国立医科大学	2
インドネシア	ウダヤナ大学	2
カンボジア	国立保健科学大学(カルメット病院)	3
ラオス	ラオス国立健康科学大学(セタティラート病院)	4
ミャンマー	ヤンゴン総合病院	3
リトアニア	リトアニア健康科学大学	8
ハンガリー	センメルweis大学	2
ポーランド	ヴロツワフ医科大学	7
米国	ヒューストン・メソジスト病院	1
	アン・アンド・ロバート・ルーシー小児病院	2
	ブリガム・アンド・ウィメンズ病院	3
	ピッツバーグ大学スクールオブメディシン	1
英国	リーズ大学	1
	ロイヤルフリー病院	2
	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン・メディカル・スクール	2
	アングリア・ラスキン大学	1
台湾	Alder Hey Children's Hospital	1
	バーミンガムこども病院	2
韓国	国立台湾大学	4
マレーシア	ソウルアサン病院	2
	国立ソウル大学	1
マレーシア	マラヤ大学	1
スペイン	スバンジャヤ・メディカルセンター	1
	ヴァルデブロン大学病院	1
スイス	チューリヒ大学病院	1
イタリア	Institute Orthopedic Rizzoli	1
	Isokinetic Bologna	1
フランス	Policlinico Gemelli	1
	Hôpital Femme Mère Enfant	1
その他	Le Service de Prévention et de Santé au Travail Corrèze-Dordogne	1
その他	成田キャンパスリモート実習	-5-

国際医療福祉大学誘致による効果について（まちの活性化）

◆居住地別学生数（R5. 5. 1現在）

学部	学科	学年	在住		
			市内	市外	計
医学部	医学科	1年	93	54	147
		2年	89	52	141
		3年	81	53	134
		4年	65	73	138
		5年	62	76	138
		6年	86	46	132
成田看護学部	看護学科	1年	25	77	102
		2年	34	76	110
		3年	19	87	106
		4年	29	78	107
成田保健医療学部	理学療法学科	1年	20	67	87
		2年	18	67	85
		3年	17	66	83
		4年	18	63	81
	作業療法学科	1年	9	35	44
		2年	7	34	41
		3年	10	35	45
		4年	7	30	37
	言語聴覚学科	1年	10	33	43
		2年	12	31	43
		3年	14	27	41
		4年	12	28	40
	医学検査学科	1年	39	44	83
		2年	45	42	87
		3年	45	45	90
		4年	39	37	76
放射線・情報科学科	1年	20	34	54	
	2年	22	37	59	
	3年	17	31	48	
	4年	13	33	46	
計			977	1,491	2,468

◆成田キャンパス 居住地別教職員数（R5. 5. 1現在）

区分	在住		
	市内	市外	計
教員	50	120	170
職員	87	106	193
計	137	226	363

◆成田キャンパス 居住地別学生・教職員数（R5. 5. 1現在）

区分	在住		
	市内	市外	計
学生	977	1,491	2,468
教員、職員	137	226	363
計	1,114	1,717	2,831

まちの活性化

- ✓令和5年度約600人の新入生
- ✓全学年で約2,500人の学生が在籍（うち約1,000人が市内に居住）
- ✓大学及び附属病院にて、約1,900人が勤務（うち約1,000人が市内に居住）
- ✓令和4年度には大学及び附属病院と市内事業者の間で約16億円の取引が創出

（参考）国際医療福祉大学成田病院 職員数（R5. 5. 1現在）

職種		人数
医療職	医師	278
	看護師	509
	その他	308
他	事務職	258
	その他(警備・調理員等)	162
計		1,515

国際医療福祉大学誘致による効果について（開かれた大学）

◆国際医療福祉大学成田病院開催の市民公開講座（下記のほか、糖尿病教室を基本的に毎月1回実施）

開催日	テーマ	担当診療科	参加者数	
2021年	7月17日	頭が痛くなったら、手足がしびれたら・・・～知ってほしい脳のお話し～	脳神経外科	340人
	10月2日	こどもに関する悩みにお答えします ～聞いてみたい4つの素朴な疑問～	小児科	37人
	10月16日	頭が痛くなったら、手足がしびれたら・・・～知ってほしい脳のお話し～	脳神経外科	201人
	12月4日	予防医学ってなに？人間ドックで何がわかるの？～元気で健康に生きるためのコツ～	予防医学センター	271人
2022年	2月19日	50歳を迎えてから考えるべきこと ～男性更年期障害から前立腺がんまで～	腎泌尿器外科	199人
	4月23日	心房細動って何？～しっかり治して元気に健康長寿～	循環器内科	160人
	6月18日	コロナ禍のお産と育児	産科・婦人科、小児科	42人
	7月16日	せぼね・手・足の痛み、あきらめていませんか？	整形外科	282人
	8月20日	健やかに生き、健やかに老いるヒント	予防医学センター	286人
	10月15日	進化した消化器内科治療～切らずに治す！～	消化器内科	93人
	12月17日	妊娠・出産から続く女性の健康維持	産科・婦人科	24人
2023年	2月4日	アレルギーを正しく知って上手につきあう	耳鼻咽喉科、皮膚科	78人
	5月13日	小児科医と管理栄養士による「こどものアレルギー」のお話	小児科・栄養室	49人
	7月15日	腰・肩・足の痛み、放っておいて大丈夫ですか？	整形外科	174人
	7月28日	大学病院で老化を予防する！～健康長寿の秘訣、お伝えします～	リハビリテーション科	87人

◆成田キャンパス開催の市民公開講座（令和5年度）

開催日	テーマ	定員
6月12日	自分の身体を知りましょう～身体測定	60人
7月14日	認知症予防運動プログラムを体験しよう	40人
8月24日	健康診断の結果の読み方と気をつけたい病気	80人
9月7日	難聴と認知症	60人
10月26日	輝く脳を育む！認知症予防のための生活習慣	80人
12月5日	乳がん検診について知ろう！	50人
1月15日	看護学部学生と一緒に考えよう！！～健康生活にシフトし、人生120年時代を楽しむ工夫～	40人
2月16日	お父さん！夜中イビキ止まってたよ！睡眠時無呼吸症候群じゃない？	50人

開かれた大学

- ✓大学及び附属病院では、「社会へ開かれた大学」の理念のもと、教育や研究の分野で知識を広く地域社会へ普及するため、定期的に市民公開講座を実施
- ✓身近な病気や健康を維持する方法をテーマに、専門医や医療従事者が分かりやすく解説
- ✓令和4年度は26回開催、延べ約1,800人参加 -7-

国際医療福祉大学誘致による効果について（市と大学の連携）

◆協定に基づきこれまでに実施した連携事業（R5.9.1現在）

類型	事業名
委員委嘱	成田市総合計画審議会・成田市まち、ひと、しごと創生推進会議・70周年記念事業・市民憲章推進事業・スポーツツーリズム推進協議会・スポーツ振興マスタープラン推進事業（成田市スポーツ推進審議会）・文化振興事業・成田市男女共同参画計画推進懇話会・成田市保健福祉審議会・福祉有償運送運営協議会・成田市障がい者差別解消支援地域協議会・成田市精神保健福祉推進協議会・成田市地域自立支援協議会・生活支援体制整備事業・成田市災害医療対策会議・成田市予防接種健康被害調査委員会・東関東自動車道（仮称）成田スマートIC建設促進期成同盟会・成田市建築審査会・成田市社会教育委員・消防委員会
教員等参画	広報なりた発行事業・大会誘致事業・生活習慣病重症化予防事業・リサイクル運動・成田市発達支援連絡会言語聴覚（ST）連携会議・医療的ケア児等支援の協議の場・成田市精神保健福祉推進協議会・成田市発達支援連絡会作業療法（OT）連携会議・成田市発達支援連絡会・地域包括ケアシステム推進事業・子育て支援センター管理運営事業・献血推進事業・骨髄バンク登録推進事業・臓器移植推進事業・幼児健康診査（1歳6か月、3歳児）・こころの発達相談・健康相談、健康教室・消費生活啓発事業・就業技術援助事業・児童生徒就学支援事業・教育センター運営事業・生涯大学院講師等・学校問題解決支援事業・公民館主催講座講師
学生参加	市民参画推進事業・選挙啓発事業・成田伝統芸能まつり・成田POPラン大会・スポーツツーリズム推進事業・成田市国際交流協会主催事業・なりた環境ネットワーク推進事業・環境基本計画推進事業・ごみの減量化事業・学習支援事業・子どもの感染症予防事業・食育推進事業・放課後子ども教室推進事業・成田市消防団女性部・応急手当啓発事業・救急隊員、学生、医師の共同教育事業
施設活用	広報なりた発行事業・ふるさと寄付金返戻品協力事業者・成田市友好、姉妹都市受入事業・人間ドック助成事業・各小中学校の児童生徒の介護体験等・議会だより発行事業



消防団の辞令を手にする学生たち

市と大学の連携

- ✓市と大学は連携に関する協定を締結
- ✓協定に基づき、現在約70の事業で連携
- ✓成田POPラン大会の救護ボランティア等に学生が参加
- ✓消防団女性部で医学部の学生20人が活動

国際医療福祉大学誘致による効果について（医療人材の育成）

◆令和4年度卒業生数（R5. 5. 1現在）

学部	学科	国家試験			卒業生数	就職者数
		受験者数	合格者数	合格率		
医学部	医学科	125	124	99.2%	125	124
成田看護学部	看護学科	103	101	98.1%	103	97
成田保健医療学部	理学療法学科	82	82	100%	82	79
	作業療法学科	47	46	97.9%	47	45
	言語聴覚学科	38	38	100%	38	38
	医学検査学科	85	73	85.9%	85	65
	放射線・情報科学科	—	—	—	—	—
計		480	464	96.7%	480	448

◆令和4年度卒業生の就職先（R5. 5. 1現在）

学部	学科	県内			工. 県外	計 (ウ+工)
		ア. 市内 ※附属病院 は内書き	イ. 市外	ウ. 県内計 (ア+イ)		
医学部	医学科	19(19)	23	42	82	124
成田看護学部	看護学科	48(46)	31	79	18	97
成田保健医療学部	理学療法学科	7(3)	48	55	24	79
	作業療法学科	7(4)	26	33	12	45
	言語聴覚学科	1(0)	17	18	20	38
	医学検査学科	7(6)	24	31	34	65
	放射線・情報科学科	—	—	—	—	—
計		89(78)	169	258	190	448

医療人材の育成

- ✓これまでの卒業生は約1,500人・看護師や理学療法士等の国家試験でも100%近くの合格率
- ✓就職した卒業生の約6割が県内に就職。そのうち約3割が市内の医療機関に就職
- ✓成田看護学部の卒業生の約半数が市内の医療機関に就職
- ✓成田保健医療学部の卒業生の約半数が県内の医療機関に就職

(参考) 薬剤師国家試験の合格率

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
大田原キャンパス	98.6%	97.8%	92.8%
(受験者数100人以上の大学中)	合格率 全国1位	合格率 全国1位	合格率 全国4位
全国合格率	68.7%	68.0%	69.0%

国際医療福祉大学誘致による効果について（医療体制の充実）

- ✓36の診療科と600を超える病床
- ✓1日平均1,000人以上の外来患者を受入れ（うち約3分の1が市内に居住）
- ✓市消防本部から年間1,600人を超える救急搬送を受入れ

医療体制の充実

国際医療福祉大学成田病院は、地域医療に対する貢献を軸に、様々な文化や食の多様性、多言語等に対応することで国際的な医療ニーズに応え、アジアを代表する世界的な拠点病院を目指している。

◆令和4年度地域別救急患者数

地域	件数
印旛郡市	3,302
その他県内	1,284
県外・不明	215
計	4,801

◆国際医療福祉大学成田病院の概要（R5.5.1現在）

病床数	642床(許可病床615床 運用病床410床)
診療科	36診療科 循環器内科、心臓外科、血管外科、呼吸器内科、呼吸器外科、消化器内科、消化器外科、脳神経内科、脳神経外科、整形外科、リハビリテーション科、腎臓内科、泌尿器外科、糖尿病・代謝・内分泌内科、アレルギー・膠原病内科、感染症科、産科・婦人科、総合診療科、腫瘍内科、血液内科、緩和医療科、心療内科、精神科、小児科、小児外科、乳腺外科、形成外科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、歯科口腔外科、麻酔・集中治療科、病理診断科、臨床検査科、放射線科(診断・核医学・治療)、救急科
センター	予防医学センター、脊椎脊髄センター、消化器病センター、リハビリテーションセンター、血液浄化(透析)センター、脳卒中センター、創傷治療センター、てんかんセンター、国際臨床感染症センター(感染症科/感染制御部)、遺伝子診断センター、国際遠隔診断センター(放射線診断・病理診断・内科診断)、がん放射線治療センター
診療受付時間	月曜日～土曜日(日曜・祝日を除く)8:30～11:30、12:30～16:30
指定状況	第2次救急医療機関、第1種感染症指定医療機関、地域災害拠点病院等

◆令和4年度病院実績（R5.5.1現在）

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	※コロナ患者について 開院以降、令和5年 12月末までに日数換 算で中等症以下患者 延べ22.9千人、重症 患者延べ487人の入 院患者を受入れた。	
日平均外来患者数	905	985	943	986	959	1,015		
日平均入院患者数	257	270	290	302	313	304		
救急件数	312	323	337	467	513	345		
紹介件数	1,190	1,300	1,481	1,348	1,239	1,280		
手術件数	426	436	521	469	512	478		
項目	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
日平均外来患者数	990	1,013	1,032	1,051	1,055	1,046	—	—
日平均入院患者数	301	317	326	315	323	297	—	—
救急件数	378	402	508	501	345	370	4,801	400
紹介件数	1,340	1,349	1,449	1,162	1,190	1,301	15,629	1,302
手術件数	551	538	586	544	537	594	6,192	516

成田薬学部の開設による波及効果

学生等の増加による消費効果・投資喚起

- ・成田薬学部の収容人数720人が成田キャンパスで学び、約4割の**300人近くの学生が新たに成田市内に居住**すると想定される（現市内居住学生約1,000人⇒約1,300人）。
- ・約300人の学生が成田市内で生活することによって、**新たに毎年約3.3億円の消費**が生まれ、**市内居住学生全体では、毎年約14.2億円の消費効果**が見込まれる（私立大学下宿生の年間生活費約109万円で算定）。
- ・大学では、**市内業者を活用し、成田市内に150人収容の学生寮を総事業費約20億円で建築する予定**。市内居住300人の増加を見込むと、これに併せて学生向けの賃貸住宅の建設への更なる投資喚起が期待される。
- ・教員を約30名、研究活動を支援する技術・事務職員を約20名増員予定（現職員総数約1,900人）

臨床薬剤師の育成等による地域医療体制の充実

- ・保健医療機関（病院・診療所・調剤薬局）に従事する人口当たりの薬剤師数が全国平均を下回っている千葉県、千葉県平均をさらに下回っている成田市において、**地域の保健医療機関の薬剤師不足解消、服薬指導の充実に寄与**する。
- ・大学病院に隣接して成田薬学部の校舎が立地することで、臨床データの収集が容易となる上、校舎内の研究施設において薬学研究だけでなく、医師による臨床研究が可能となるため、**基礎医学・薬学・臨床医学各分野が連携して研究を進めるなど、相乗効果が期待**される。

製薬メーカーや医療機器会社等の医療関連企業の誘致・連携

- ・医学部、薬学部及び附属病院が近接して立地することで、医薬品製造分野において、産学共同研究を行う環境が整備されるため、市内関係企業との連携、製薬メーカーや医療機器会社をはじめとした**新たな医療関連企業の誘致が期待**される。